



あの人と
こんな話

誰にも似ていない自分へ 進化していきこう、今日も

UCLA歯学部ワイントロープセンターおよび補綴学講座教授／
骨・インプラントサイエンス研究チーム(LBIS)ディレクター

おがわ たかひろ ●1965年長崎県生まれ。90年九州大学歯学部、94年同大学院博士課程卒業後、同歯学部補綴学第二講座助手を経て98年文部省在外研究員として渡米。2002年UCLA歯学部助教授、04年米国カリフォルニア州歯科医師特別免許取得、05年UCLA歯学部准教授(終身教授位)を経て11年同教授。光エネルギー応用チタン機能化における世界的権威。同研究成果とそれに基づくインプラントの機能化技術は臨床応用が開始された。多数の学術研究賞を受賞し、10年には歯科で最も権威ある賞の一つ、William J.Gies賞受賞。日本では、口腔先端応用医科学研究会を創設。

小川 隆広さん

歯 科医療の歴史にその名を刻むことになる日本人、小川隆広教授。歯の治療に用いられる人工歯根、デンタルインプラントと骨の接着力をより確かなものとする技術開発に成功した。これは、チタン性インプラントの性能を紫外線照射によって2〜3倍に増加させる画期的な技術だ。昨年、歯科で最も権威のある賞の一つを受賞し、すでに全世界の治療現場で標準化が始まっている。

穏やかな物腰、だが全身を耳にしているかのような集中力がヒタヒタと伝わってくる。視線の強さと、人懐こい笑顔が同居する。日本で築いた歯科医師や大学教官の地位、慣れ親しんだ日本の文化や生活を全て捨てて渡米したのは30歳代半ば。それからわずか12年で成果を出した。「言語も、文化も、教育環境も全てアウェーの国へ、なぜわざわざ苦しい思いをしにくのか。その時は、日本で得たもののプラス米国での経験で世界一になれると考えたのです(笑)。まさにそれは和魂洋才。日本人の精神文化と西欧の知識、技術が合わさる時、それは無敵になると信じたのです」

田中美絵=文 南條良明=写真